【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.251

［古文シリーズ］ 古文に親しむ1

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　竹取物語

今は昔、竹取のおきなといふものありけり
野山にまじりて竹を取りつつ、よろずのことに使いけり名をば、さぬきのみやつことなむいひける
その竹の中に、もと光る竹なむ、一筋ありけるあやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたりそれを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり

現代の言葉での文章　（６文）

今となってはもう昔のことになりますが、竹取のおきなという人がいました。野山に分け入って竹を取り、いろいろなことに使っておりました。なまえを、さぬきのみやつことといいました。
（ある時）その竹の中に、根本が光る竹が一本ありました。おかしいなと思って近寄って見てみると、（その竹の）筒の中が光っていました。それを見ると、三寸くらいの大きさの人が、とてもかわいらしい姿で座っていました。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ1

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

今は昔、竹取のおきなといふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろずのことに使いけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ、一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.252

［古文シリーズ］ 古文に親しむ２

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　　平家物語

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり
娑羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはすおごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとしたけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ

祇園精舎　ぎおんしょうじゃ
鐘　かね
諸行無常　しょぎょうむじょう
娑羅双樹　しゃらそうじゅ
盛者必衰　じょうしゃひっすい

現代の言葉での文章　（４文）

祇園精舎の鐘の音には、諸行無常の響きがある。娑羅双樹の花の色は、盛者必衰の道理を表している。おごり高ぶった人でも長くは続かず、（それは）まるで春の夜の夢みたいにみじかくはかないものである。勢いが盛んな人も最後には滅びてしまう、（それは）風の前の塵と同じである。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］古文に親しむ2

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。
娑羅双樹の花の色、
盛者必衰のことわりをあらはす。
おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.253

［古文シリーズ］ 古文に親しむ3

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　　枕草子①

春はあけぼのやうやう白くなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる
夏は夜月のころはさらなり、やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたるまた、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし雨など降るもをかし

現代の言葉での文章　（6文）

春は明け方（が趣があっていい）。だんだんと白くなっていく山ぎわが、少しずつ光りを増してきて、紫がかった雲が細くたなびいている（のは趣がある）。
夏は夜（が趣があっていい）。月のころはいうまでもないし、やみ夜でもやはり、蛍がたくさん飛びかっている（ようすは趣がある）。また、（たくさんでなくても）ほんの一匹二匹が、ほのかに光りながら飛んでいるのも（趣がある）。雨などが降るのも趣があってよい。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］古文に親しむ3

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

春はあけぼの。ややう白くなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.254

［古文シリーズ］ 古文に親しむ4

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　枕草子②

秋は夕暮れ夕日のさして山の端いと近うなりたるに、からすの寝所へ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなりまいてかりなどの連ねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず

現代の言葉での文章　（4文）

秋は夕暮れ（が趣があっていい）。夕日が差し込んで、山の端がとても近くに見えるころに、からすがねどころへ行くのだろうか、三つ四つ、二つ三つなど（ばらばらに）飛び急いでいる姿もまた心にしみる趣がある。ましてかりなどが列を作っている様子が、たいへん小さく見えるのは、とても趣がある。日がすっかり暮れて、風の音や、虫の音などは、また言うまでもない（くらい趣がある）。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ4

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、からすの寝所へ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいてかりなどの連ねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.255

［古文シリーズ］ 古文に親しむ5

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句点「。」をつけましょう。句点「。」の数は現代文と同じになるようにしましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　枕草子③

冬はつとめて雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火をけの火も、白き灰がちになりてわろし

現代の言葉での文章　（３文）

冬は早朝（が趣があっていい）。雪が降っている様子は言うまでもないし、霜がとても白い様子も、またそうでなくてもとても寒いときに、火などを急いでおこして、炭火の火を（あちらこちらに）持って行くのも、とても似つかわしい。昼になって、（寒さが）しだいに和らいでくると、火桶の火も、白い灰が多くなってよくない。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ5

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火をけの火も、白き灰がちになりてわろし。

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.256

［古文シリーズ］ 古文に親しむ6

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　おくのほそ道①

月日は百代の過客にして行き交ふ年もまた旅人なり舟の上に生涯を浮かべ馬の口とらへて老いを迎ふる者は日々旅にして旅をすみかとす古人も多く旅に死せるあり

百代　はくたい
過客　かかく

現代の言葉での文章

月日は永遠の時間を通り過ぎていく旅人のようなものであって、やってきては去ってゆく年もまた旅人である。（船頭として）舟の上で働いて一生を送り、（馬方として）馬のくつわを引いて年をとっていく人々は、毎日が旅であっていわば旅を自分の住まいとしているようなものである。昔の人の中にも多く旅の途中で亡くなった人がいる。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ6

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。
舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとす。
古人も多く旅に死せるあり。

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.257

［古文シリーズ］ 古文に親しむ7

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　おくのほそ道②

予もいづれの年よりか片雲の風に誘はれて漂泊の思いやまず海浜にさすらへて去年の秋江上の破屋にくもの古巣を払ひてやや年も暮れ春立てるかすみの空に白河の関超えむとそぞろ神の物につきて心を狂はせ道祖神の招きに会ひて取るもの手につかず

去年　こぞ
道祖神　どうそじん

現代の言葉での文章

私もいつの年からか、ちぎれ雲が風に誘われて空を流れていくように、あてのない旅に出たいという思いがやまず、海辺の地方をさまよい歩き、去年の秋、隅田川のほとりのあばら家に戻りくもの古い巣を払って住んでいるうちに、やがて年も暮れ、立春になって空にかすみが立ちこめるようになると、白河の関をこえていきたいものだと、そぞろ神がとりついて私の心をそわそわさせ、道祖神が招いているような気がして、取る物も手につかない。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ7

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思いやまず、海浜にさすらへて、去年の秋、江上の破屋にくもの古巣を払ひて、やや年も暮れ、春立てるかすみの空に、白河の関超えむと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、道祖神の招きに会ひて、取るもの手につかず。

「おくのほそ道」よ

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.258

［古文シリーズ］ 古文に親しむ8

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　おくのほそ道③

もも引きの破れをつづりかさの緒付け替へて三里に灸すうるより松島の月まづ心にかかりて住めるかたは人に譲りて杉風が別墅に移るに

草の戸も住み替はる代ぞひなの家

面八句を庵の柱に懸け置く

別墅　べっしょ

現代の言葉での文章

もも引きの破れを繕い、笠のひもを付け替えて、三里に灸をすえると、松島の月はどんなだろうとまず気にかかって、今まで住んでいた家は人に譲り、杉風の別荘に移るにあたって、

草の戸も住み替わる代ぞ雛の家

（と詠んで）これを発句として面八句を懐紙に書き記して庵の柱に掛けておいた。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ8

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

もも引きの破れをつづり、かさの緒付け替へて、三里に灸すうるより、松島の月まづ心にかかりて、住めるかたは人に譲りて、杉風が別墅に移るに、

草の戸も住み替はる代ぞひなの家

面八句を庵の柱に懸け置く。

「おくのほそ道」よ

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.259

［古文シリーズ］ 古文に親しむ9

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　竹取物語「天の羽衣①」

天人の中に持たせたる箱あり天の羽衣入れりまたあるは不死の薬入れり一人の天人言ふ「壺なる御薬たてまつれきたなき所の物きこしめしたれば御心地あしからむものぞ」とて持て寄りたればいささかなめたまひて少し形見とて脱ぎ置く衣に包まむとすればある天人包ませず

天の羽衣　あまのはごろも

現代の言葉での文章

天人の中（の一人）に、持たせてある箱がある。天の羽衣が入っている。またもう一つある箱には、不死の薬が入っている。一人の天人が言うには、「壺の中に入っている御薬をお飲みください。けがれた地上のものをお召し上がりになったので、ご気分が悪いことでしょう。」と言って、（薬の壺を）持って（姫の）そばに寄ったところ、ちょっとおなめになって、少し形見として脱いで残しておく着物に包もうとすると、（そこに）いる天人が包ませない。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ9

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

天人の中に、持たせたる箱あり。天の羽衣入れり。
またあるは、不死の薬入れり。一人の天人言ふ、「壺なる御薬たてまつれ。きたなき所の物きこしめしたれば、御心地あしからむものぞ。」とて、持て寄りたれば、いささかなめたまひて、少し形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、ある天人包ませず。

「竹取物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.260

［古文シリーズ］ 古文に親しむ10

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　竹取物語「天の羽衣②」

御衣をとり出て着せむとすその時にかぐや姫「しばし待て」と言ふ「衣着せつる人は心異になるなりと言ふものひと言言ひ置くべきことありけり」と言ひて文書く

御衣　みぞ

現代の言葉での文章

天の羽衣を取り出して、（かぐや姫に）着せようとする。その時にかぐや姫は、「ちょっと待ちなさい。」と言う。「（天人が）衣を着せてしまった人は、心が（人間世界とは）変わってしまうと言います。（その前に）ひと言、言っておかなければならないことがあったのです。」と言って、手紙を書く。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ10

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

御衣をとり出て、着せむとす。その時に、かぐや姫、「しばし待て。」と言ふ。
「衣着せつる人は、心異になるなりと言ふ。ものひと言、言ひ置くべきことありけり。」と言ひて、文書く。

「竹取物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.261

［古文シリーズ］ 古文に親しむ11

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　竹取物語　「かぐや姫の昇天」

中将取りつればふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば翁を「いとほし、かなし」とおぼしつることも失せぬこの衣着つる人は物思ひなくなりにければ車に乗りて百人ばかり天人具して昇りぬそののち翁・嫗、血の涙を流して惑へどかひなし

翁　おきな　　嫗　おうな

現代の言葉での文章

中将が（手紙と壺を）受け取ると、（天人が）さっと天の羽衣を（かぐや姫に）着せてさしあげたので、おじいさんのことを、「気の毒だ、かわいそうだ。」とお思いになっていたことも消え失せてしまった。この天の羽衣を着た人は地上の人間としての感情がなくなってしまったので、（そのまま）天を飛ぶ車に乗って、百人ほどの天人を引き連れて、（月の世界に）昇ってしまった。

そののち、おじいさんとおばあさんは、血の涙を流して悲しむけれども、どうにもしかたがない。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ11

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

中将取りつれば、ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、翁を、「いとほし、かなし。」とおぼしつることも失せぬ。

この衣着つる人は物思ひなくなりにければ、車に乗りて、百人ばかり天人具して、昇りぬ。

そののち、翁・嫗、血の涙を流して惑へど、かひなし。

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.262

［古文シリーズ］ 古文に親しむ12

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　徒然草「序段」

つれづれなるままに日暮らし硯に向かひて
心にうつりゆくよしなし事をそこはかとなく
書きつくればあやしうこそものぐるほしけれ

現代の言葉での文章

なにもすることがなく退屈であるのにまかせて、一日中、硯に向かいながら、心に次々と浮かんでは消えていくとりとめもないことを、なんというあてもなく書きつけていると、あきれるほど気分が高ぶってくることであるよ。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ12

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

り

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

「徒然草」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.263

［古文シリーズ］ 古文に親しむ13

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　　徒然草「第五十二段①」

仁和寺にある法師年寄るまで石清水を拝まざりければ心うく覚えてあるとき思ひたちてただ一人徒歩より詣でけり極楽寺・高良などを拝みてかばかりと心得て帰りにけり

仁和寺　にんなじ
徒歩　かち
極楽寺　ごくらくじ

現代の言葉での文章

仁和寺にいた僧が、年をとるまで石清水八幡宮をお参りしたことがなかったので、残念に思われて、ある時思い立って、ただ一人で徒歩で参詣した。
ふもとの極楽寺や高良大明神などを拝んで、これだけのものと思い込んで帰ってしまった。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ13

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。
極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

「徒然草」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.264

［古文シリーズ］ 古文に親しむ14

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　徒然草「第五十二段②」

さてかたへの人にあひて「年ごろ思ひつること果たしはべりぬ聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれそも参りたる人ごとに山へ登りしは何事かありけんゆかしかりしかど神へ参るこそ本意なれと思ひて山までは見ず」とぞ言ひける少しのことにも先達はあらまほしきことなり

現代の言葉での文章

帰って仲間の人に向かって、「長年の間思っていたことを成しとげました。前々から聞いていたのにもまさって、尊くあられました。それにしても、参詣に来た人々が皆山へ登っていったのは、山の上にも何事かあったのでしょうか、私も知りたかったのですが、神に参拝することこそが目的だと思って、山の上までは登ってみませんでした。」と言ったのだった。
ちょっとしたことにも、その道の指導者はあってほしいものである。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ14

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

さてかたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.265

［古文シリーズ］ 古文に親しむ15

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　徒然草「第九十二段①」

ある人弓射ることを習ふに諸矢をたばさみて的に向かふ師のいはく「初心の人二つの矢を持つことなかれ後の矢を頼みて初めの矢になほざりの心あり毎度ただ得失なくこの一矢に定むべしと思へ」と言ふ

現代の言葉での文章

ある人が、弓を射ることを習うときに、二本の矢を手にして的に向かった。
師匠の言うには、「初心者は、二本の矢を持ってはならない。後の矢をあてにして、初めの矢を射るときに油断が生じるものだ。毎回ただ命中するかどうか迷わず、この一本の矢で必ず当てようと思え。」と言う。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ15

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

ある人、弓射ることを習ふに諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なくこの一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。

「徒然草」より

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.266

［古文シリーズ］ 古文に親しむ16

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　徒然草「第九十二段②」

わずかに二つの矢師の前にて一つをおろかにせんと思はんや懈怠の心自ら知らずといへども師これを知るこの戒め万事にわたるべし

懈怠　けだい

現代の言葉での文章

たった二本の矢なのに、師匠の前で、一本をおろそかにしようと思うだろうか。
油断する心は、自分自身では気づかなくても、師匠はこれを見通す。
この教訓は、すべてのことに通ずるであろう。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ16

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

わずかに二つの矢、師の前にて、一つをおろかにせんと思はんや。
懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。
この戒め、万事にわたるべし。

「徒然草」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.267

［古文シリーズ］ 古文に親しむ17

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　枕草子「第百四十四段」

うつくしきもの瓜にかきたるちごの顔雀の子のねず鳴きするに躍り来る二つ三つばかりなるちごの急ぎてはひ来る道にいと小さき塵のありけるを目ざとに見つけていとをかしげなる指にとらへて大人などに見せたるいとうつくし頭は尼そぎなるちごの目に髪の覆へるをかきはやらでうちかたぶきて物など見たるもうつくし

指　および

現代の言葉での文章

かわいらしきもの。瓜に描いた幼児の顔。雀の子が、（人が）ねずみの鳴き声をまねてチュウチュウと呼ぶと、おどるようにしてやってくる。

二・三歳ぐらいの幼児が、急いではってくる途中に、たいそう小さい塵があったのを、目ざとく見つけて、とても愛らしい指でつまんで、大人などに見せている様子は、まことにかわいらしい。髪をおかっぱにそっている幼児が、目に髪の毛がおおいかぶさっているのを手で払いのけもしないで、ちょっと首をかしげて何かを見ているのも、かわいらしい。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ17

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

うつくしきもの。瓜にかきたるちごの顔。雀の子の、ねず鳴きするに躍り来る。二つ三つばかりなるちごの、急ぎてはひ来る道に、いと小さき塵のありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなる指にとらへて、大人などに見せたる、いとうつくし。頭は尼そぎなるちごの、目に髪の覆へるをかきはやらで、うちかたぶきて物など見たるも、う

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.268

［古文シリーズ］ 古文に親しむ18

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　　平家物語「扇の的①」

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに折節北風激しくて磯打つ波も高かりけり舟は揺り上げ揺りすゑ漂へば扇もくしに定まらずひらめいたり沖には平家舟を一面に並べて見物す

酉の刻　とりのこく　磯　いそ

現代の言葉での文章

時は二月十八日の午後六時ごろのことであったが、折から北風が激しく吹いて、岸辺を打つ波も高かった。舟は上下に揺れて漂うので、扇もさおの先でひらひら揺れ動いて静止しない。沖のほうでは平家が、海上一面に舟を並べて見物している。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ18

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、折節北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。

舟は揺り上げ揺りすゑ漂へば、扇もくしに定まらずひらめいたり。

沖には平家、舟をいちめんに並べて見物す。

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.269

［古文シリーズ］ 古文に親しむ19

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的②」

陸には源氏くつばみを並べてこれを見るいづれもいづれも晴れならずといふことぞなき与一目をふさいで「南無八幡大菩薩我が国の神明日光の権現宇都宮那須の湯泉大明神願はくはあの扇の真ん中射させてたばせたまへ

陸　くが　神明　しんめい　権現　ごんげん
南無八幡大菩薩　なむはちまんだいぼさつ
湯泉大明神　ゆぜんだいみょうじん

現代の言葉での文章

陸地では源氏が、馬のくつわを並べてこれを見守る。敵味方となくじっと注目するので、このうえなく晴れがましいことである。
与一は、目を閉じて、「どうか八幡大菩薩よ、我が故郷の神々、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神よ、願わくはあの扇の真ん中を射させてくださいませ。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ19

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくはあの扇の真ん中射させたまへ。

「平家物語」より

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ19

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくはあの扇の真ん中射させたまへ。

「平家物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）
中学校国語　No.270

［古文シリーズ］ 古文に親しむ20

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的③」

これを射損ずるものならば弓切り折り自害して人に二度面を向かふべからずいま一度本国へ迎へんとおぼしめさばこの矢外させたまふな」と心のうちに祈念して目を見開いたれば風も少し吹き弱り扇も射よげにぞなつたりける

二度　ふたたび

現代の言葉での文章

これを射損じるならば、弦を断ち弓を折り自害して、二度と人に顔を合わせるつもりはありません。もう一度郷里に迎えてやろうとお思いなさいますならば、この矢が外れないようにしてください。」と、心のうちに念じて、目を開けて見てみると、風も少し弱まり、扇も射やすそうになっていた。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ20

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢外させたまふな。」と、心のうちに祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

「平家物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.271

［古文シリーズ］ 古文に親しむ21

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的④」

与一鏑を取つてつがひよつ引いてひやうど放つ小兵といふぢやう十二束三伏弓は強し浦響くほど長鳴りしてあやまたず扇のかなめ際一寸ばかりおいてひいふつとぞ射切つたる鏑は海へ入りければ扇は空へぞ上がりける

鏑　かぶら　十二束三伏　じゅうにそくみつぶせ

現代の言葉での文章

与一は、鏑矢を取ってつがえ、引き絞ってひょうと放った。小柄な武者とはいいながら、矢は十二束三伏と長く、弓も頑強なので、浦一帯に鳴り響くほど長いうなりをたてて、あやまたず扇のかなめから一寸ほど離れた所を、ひいふっとみごとに射止めた。鏑矢は海に落ちると、扇は空へと舞い上がった。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ21

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

与一、鏑を取ってつがひ、よつ引いてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇のかなめ際一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。鏑は海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。

「平家物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.272

［古文シリーズ］ 古文に親しむ22

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
○今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
○古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的⑤」

しばしは虚空にひらめきけるが春風に一もみ二もみもまれて海へさっとぞ散ったりける
夕日のかかやいたるにみな紅の扇の日出だしたるが白波の上に漂ひ浮きぬ沈みぬ揺られければ沖には平家ふなばたをたたいて感じたり陸には源氏えびらをたたいてどよめきけり

虚空　こくう　　陸　　くが

現代の言葉での文章

しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさっと散り落ちた。
夕日に輝く白い波の上に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が漂って、浮きつ沈みつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ22

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。

夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.273

［古文シリーズ］ 古文に親しむ23

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的⑥」

あまりのおもしろさに感に堪へざるにやとおぼしくて舟のうちより年五十ばかりなる男の黒革をどしの鎧着て白柄の長刀持つたるが扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり

長刀　なぎなた

現代の言葉での文章

あまりのおもしろさに、感に堪えなかったのであろう、舟の中から、年のころは五十歳ほど、黒革おどしの鎧を着て、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあった所に立って舞を舞った。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ23

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。

「平家物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.274

［古文シリーズ］ 古文に親しむ24

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的⑦」

伊勢三郎義盛与一が後ろへ歩ませ寄つて「御定ぞつかまつれ」と言ひければ今度は中差取つてうちくはせよつぴいてしや頸の骨をひやうふつと射て舟底へ逆さまに射倒す

伊勢三郎義盛　いせのさぶろうよしもり
御定　ごじょう　中差　なかざし
頸　くび

現代の言葉での文章

（そのとき）伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませてきて、「御定であるぞ、射よ。」と命じたので、今度は中差を取ってしっかりと矢につがえ、十分に引き絞って、男の頸の骨をひょうふっと射て、舟底へまっさかさまに射倒した。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ24

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、「御定ぞ、つかまつれ。」と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。

「平家物語」より

【中学校国語ワークブック】

学習日:　　月　　日(　　)
中学校国語　No.275

［古文シリーズ］ 古文に親しむ25

年　　組　氏名

このシリーズでは、古文を学習します。

学習の目的は二つです。
〇今の言葉と違った読み方をしたり、リズムを持っていたりする古文に慣れることです。そのためには、まず声に出して読みましょう。
〇古文では現代の文章と表現の仕方が違ったり、今では使わない言葉が出てきたりします。ですから、どんなことを書いているのかがわかりにくいと感じるかも知れません。しかし、今皆さんが使っている言葉と共通しているところもたくさんありますから、まずはじめは、だいたいどんなことが書いているのかを理解しましょう。

＜課題＞
①現代文を参考にして、次の古文に句読点「、」「。」をつけましょう。
②解答解説シートにある古文を音読しましょう。
（すらすら読めるまで繰り返しましょう）
③（答え合わせが終わったら）解答解説シートにある古文を視写しましょう。

古文の文章　平家物語「扇の的⑧」

平家の方には音もせず源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり「あ射たり」と言ふ人もありまた「情けなし」と言ふ者もあり

方　かた

現代の言葉での文章

平家方は静まり返って音もしない、源氏方は今度もえびらをたたいてどっと歓声をあげた。「ああ、よく射た。」と言う人もあり、また、「心ないことを。」と言う者もあった。

【中学校国語ワークブック】

解答・解説シート

［古文シリーズ］ 古文に親しむ25

年　　組　氏名

学習するみなさんへ：

句点を正しくつけることができましたか。音読するときも、全体の意味をつかむときも、「文」のまとまりを意識するといいですよ。
音読が終わったら、ノートや原稿用紙に視写しましょう。

解答

平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。
「あ、射たり。」と言ふ人もあり、また、「情けなし。」と言う者もあり。

「平家物語」より